

令和 8 年度第 1 回渋川市総合計画審議会結果概要

開催日時	令和 8 年 8 月 3 日（月）午後 1 時 30 分～午後 3 時 15 分
開催場所 及び出席者	本庁舎 3 階 大会議室 ○審議会委員 河藤委員、小竹委員、石田委員、早川委員、高橋委員、 関口（浩）委員、水沢委員、鈴木委員、伊藤委員、寺島委員、 島委員、関口（征）委員、藍原委員、関口（孝）委員、金井委員、 間々田委員、齋藤委員、都丸委員、石川委員、平方委員 ○市長 ○策定委員会委員 副市長、教育長、総務部長、総合政策部長、市民生活部長、 福祉部長、こども健康部長、農政部長、商工観光部長、建設交通部長、 上下水道局長、教育部長、議会事務局長、農業委員会事務局長 ○事務局 総合政策課長、同課政策推進係長、同課政策推進係員 3 名
配付資料	・次第 ・名簿 ・渋川市総合計画審議会の会長及び副会長の選任について（資料No. 1） ・第 2 次渋川市総合計画策定方針（資料No. 2） ・第 2 次渋川市総合計画後期基本計画 ・しぶかわ未来共創プラン（第 3 期渋川市総合戦略）
会議次第	1 開会 2 委嘱状交付 3 あいさつ 4 自己紹介 5 議事 （1） 渋川市総合計画審議会の会長及び副会長の選任について （2） 第 3 次渋川市総合計画策定方針について 6 意見交換 7 その他 8 閉会
審議結果	（1） 渋川市総合計画審議会の会長及び副会長の選任について 会長に河藤佳彦委員、副会長に小竹裕人委員が選ばれた。 （2） 第 3 次渋川市総合計画策定方針について 別紙のとおり

○ 議事における意見等

No.	委員からの意見等	回答等
1	渋川市の喫緊の課題はどんなことか。市民からの相談が多いなど行政運営上の課題で早く解決を図らなければならない課題を教えてほしい。	【市】最大の課題は人口減少であると考え。本市は県内でも人口減少率が高く、それに伴い、税収減などによる財政への影響も課題となっている。 また、本市は、6市町村の合併を経ているため、旧市町村で整備された公民館、体育館などの公共施設が多くあり、それらの中には昭和50年代に建てられ、老朽化が進んだものが多数ある。それらへの対応も財政的に大きな負担となっている。
2	諮問は次回の審議会となるか。	【市】次回を予定している。
3	第3次総合計画は、新たに策定するものとなるのか、それとも第2次総合計画における課題解決に比重を置くのか。	【会長】第2次総合計画の課題を踏まえつつ、ゼロベースで新しい計画として策定するものとなる。

○ 意見交換における意見等

No.	委員からの意見等
1	渋川青年会議所では、子ども向け事業などを行っており、予算や事業を担うメンバーが減少する中ではあるが、できるだけ市ができないような事業に取り組んでいる。今後は、渋川青年会議所の会議に市の職員にも参加してもらい、連携し、互いに補完し合いながら課題解決に取り組んでいけるとよいと思う。
2	渋川市は森林環境税の活用が十分でないと思う。森林環境税を活用して森林に作業道を整備し、林業の活性化に結びつけてはどうか。 また、作業道をオフロードバイクによって荒らされる懸念があるが、むしろ、そのような利用者から通行料を徴収して、観光に結びつけるような仕組みがあると面白いと思う。 それから、渋川市は子育てがしやすいと思っている。特に学童保育が充実していて、保育料も優遇されている。そういった住みやすさをもっと PR して、若い人達の移住促進を図ってほしい。
3	各地区で高齢化が進んでおり、空き家も増えている。家庭ゴミについて、各町内において輪番制で担当を決め、集積場を管理しているが、その維持も難しくなっている。空き家を解体して更地にすると固定資産税額が上がってしまうので、税額が上がらないように仕組みを改めることはできないか。 また、第3次総合計画の策定に当たり、市民参画の様々な取組を進めているが、市民説明会では、高齢者の参加が多いと感じた。もっと若い人の考え方が反映されるような手法を検討してほしい。
4	市民意識調査を実施しているというが、回答者の属性に偏りがないように、若い人の意見が取り入れられるように配慮してほしい。小中学校は、保護者向けの連絡アプリがあるので、そういったツールの活用も考えられると思う。 人口減少について、出生率が上がらない中ではあるが、過去のアンケート結果を見ると、渋川市に住みたいと思う人も多いので、自治体間の人の取り合いではなく、渋川市で生まれ、育ち、渋川市の良さを知り、一時的に市外に出ても、渋川市が好きで、渋川市に戻ってくる人が増えるような取組に力が入れるとよいと思う。子どもたちに話を聞くと、渋川市は好きだけれど、子ども同士で遊んだり、集まれる場所が少ないと言う。市内に子どもたちが集まって、様々な思い出をつくれるような環境を整えないと、渋川市に戻ってきたいとは思えないと思う。勉強を重視するだけでなく、そういった場所が必要だと思う。
5	現在は前橋市に住んでいるが、以前渋川市に住んでいた時、LGBTQ の人権について、市長宛てに手紙を書いたことがあった。その時は啓発に努めると

	いう回答であった。その後、渋川市と再び縁ができて、渋川市内の小中学校などでLGBTQの人権などについて講師として話をさせてもらっている。前橋市でも学校に講師として呼ばれることがあるが、渋川市と比較すると、学校数は前橋市の方が多いが、講師として話をさせていただく機会は渋川市の方が多いため、渋川市は取組が進んでいると感じる。このペースで子どもたちに伝えていくことができれば、LGBTQの当事者にとって暮らしやすくなるだけでなく、広く市民に人権意識が根付くようになると思う。 LGBTQの人々を認めると人口減少が進むと思っている人がいるかもしれないが、そうではなく、多様な生き方をできている人たちがこのまちにいるというポジティブなメッセージを発することは、当事者がこのまちで働くことができる、暮らしていくことができるということにつながると思う。渋川市の取組を総合計画に明記できるとよいと思う。
6	自治会加入者がこの3年ほどで大きく減少している。渋川市には良いところがたくさんあるが、若い人が市外に移住してしまい、高齢化が進んでいる。対策を検討してほしい。
7	中高生アンケートは面白い取組だと思う。とりまとめた結果を楽しみにしている。群馬県も総合計画（ビジョン）のアップデートに取り組んでいるので、県と渋川市の取組が互いに参考になればよいと思う。
8	渋川駅前では、店舗の閉店が増えていると思う。渋川市は、創業へのチャレンジを支援する事業を行っていると思うが、駅前で事業を営むことは簡単ではない。中之条町の「ふるさと交流センターつむじ」のように、建物の小さな一角から始められるような取組は参考になると思う。創業後、うまくいっている例を見ると、SNSの活用や専門家によるコンサルティングを受けるなどしている。そういった支援にも力を入れていけるとよいと思う。 また、若い人が進学などで一旦市外に出ることは大切なことだと思うが、その後、渋川市に戻ってきてもらえるようなまちにしたいと思う。 市内には高校が4校あり、工業高校は県内唯一の自動車科という特徴があるが、北毛地域に商業高校は利根商業しかないので、青翠高校に商業科があるとよいと思う。
9	現在の総合計画は、他でも読んだことがあるような内容が多いと感じる。最初にキャッチーな1ページがあるだけで、印象が変わると思う。画期的な総合計画にできるとよいと思う。
10	「しぶかわ未来共創プラン」について、観光入込客数の出典を後日でよいので教えてほしい。また、KPI「伊香保温泉外国人宿泊者」の令和11年度目標値22,000人は、間もなく達成できると思うので、目標値は2倍くらいを設定してもよいと思う。デジタルの活用が想定される取組として、「ホテル管理

	システムなどを活用したマーケティング構築支援」とあるが、城崎温泉などでは既に取り組みられているので、早急に進めたほうがよいと思う。古いデータに基づいて観光振興を考えてもあまり意味がない。データの抽出が早くできるようなデジタルの活用が求められていると思う。 また、石段街の Wi-Fi がつながりにくい状況なので、メッシュを取り入れてほしい。より多くのお客様が利用できるし、費用もあまりかからないと思う。
11	第2次総合計画の施策「3－3 商業の振興」の基本方針に「商工会議所、商工会、金融機関などと連携し」とあるので、1つの事例を紹介したい。平成26年の11月に渋川市と商工会議所が連携し、渋川駅前通り空き店舗対策特別委員会を立ち上げ、累計28店舗の新規出店につなげることができた。この取組は、令和3年に渋川市の創業支援事業へと引き継がれ、現在も28店舗のうち26店舗は営業を続けている。先ほど、駅前の店舗の閉店が増えているという話があったが、アフターフォローに不十分な部分があったのだと思う。行政と商工会議所がしっかり連携して、まずやってみようという姿勢で取り組めば、結果が必ずついてくると思う。 第3次総合計画では、抽象的な目標を並べるのではなく、何を実行するか、また誰が担うのか、具体的かつ実践的な計画にできるとよいと思う。
12	社会経済情勢が大きく変化する中で、基本構想の計画期間10年というのは長いと思う。第2次総合計画には多くのKPIが掲げられているが、第3次総合計画では、今後それらをどうしていくのか、労働人口が減少し、企業にとっては人材獲得競争が非常に激化する中、企業の誘致をどのように進めていくのかが大切だと思う。働く先がなければ人も集まってこないで、中小を含めて市内企業にも、渋川市がどうしたらよくなるか、アンケートなどで聞いてもよいと思う。人口減少は避けられないと思うので、渋川市が消滅可能性自治体に挙げられるような状況の中、どのように人口減少の速度を遅くしていくかが重要だと思う。
13	農業について、「しぶかわ未来共創プラン」には遊休農地の活用や農地の集約化のほか、農家の生産組織化、法人化などが示されている。市内には、有馬、半田、行幸田、中村の4つの集落営農組織があるが、この10年で構成員が疲弊している。市とJAが連携し、組織をまとめていくような対応をしていかないと、渋川市の緑が維持できなくなるのではないと思う。 また、スマート農業の導入についても記載があるが、国や県の予算を確保し、農家に回せるように事業の掘り起こしをしてほしい。
14	スポーツには、競技やレジャーなど様々なスポーツがあるが、お金をかけずに子どもたちが日常生活の中で体や心を鍛えることができるような環境を

	整えることが重要だと思う。 渋川市はコンパクトなまちなので、それを中学校の部活動に活かしたい。子どもたちが、渋川市のどこにいても様々なスポーツができ、渋川に生まれてよかったと思えるような環境をつくりたい。そのための力添えをお願いしたい。
15	国の主導により、2040 年に向けての地域医療構想の策定が始まっている段階の中、今後、医療の集約化や効率化、医療人材の確保などが大きな議論の枠になっていくと思う。行政の区分上では、医療は県、介護は市町村と分かれているが、特に高齢者については、医療と介護を分けていくのが難しい状況であり、集約化についても、渋川市のように立地や人口規模が中途半端な都市は、下手に集約化されると、地域で十分な医療が受けられなくなるリスクがあると危機感を抱いている。医療の調整や管理等を担う県に対して、市としての考え方を強く言えるよう、地域の医療計画を総合計画に落とし込んでほしい。
16	市の課題や取組について、他の市町村と連携したり、情報交換したりする機会があるならば、そのような機会を生かし、互いに良いものを取り入れたり、提供したりできるとよいと思う。
17	防犯について、ボランティア団体などが懸命に活動しているが、高齢化が進む中、仕事を持つ若い人が活動に参加することは難しいので、企業の従業員が、仕事の一環として活動に参加できるような仕組みができるとよいと思う。防犯講話などに参加する人は防犯意識の高い人だと思うので、防犯講話などに参加しない人の防犯意識をどのように高めていくかを考えていく必要があると思う。
18	消防団について、全国的に団員数が減少しており、渋川市では、今年4月1日に条例の一部を改正し、団員の定数や分団数を減らした。県内の人口が増加している自治体においては、若い団員の確保がしやすいのではないかと考えていたが、実際には、特に若い世代の消防団や自治会活動に対する興味や関心が低く、団員確保に苦慮しているということだった。渋川市では、高齢者や、市民ではないが市内に勤めている人なども団員として活動しており、地域の安全・安心のために協力をいただいている。今後、より多くの人の協力をお願いしたい。
19	総合計画はまちづくりの憲法のようなものなので、抽象的な内容にならざるを得ないことを理解してほしい。 「しぶかわ未来共創プラン」で掲げている合計特殊出生率の実現は難しいと思うし、現状に合わせて考えたほうがよいと思う。 また、「GunMaaS（群馬版 MaaS）」の取組を推進していただきたい。マイナ

	ンバーと紐づけることで市民か否かは区別できるので、市民税を払っていない観光客は通常料金で、市民が割安に公共交通を利用できるとよいと思う。 災害協定についても、有事の際、避難先として受け入れるだけでなく、平時には何らかの支援など、バーターを求めてもよいと思う。有事に助けるということだけでなく、そういった「したたかさ」が総合計画に入れられると、市外の資金をうまく活用した取組ができると思う。
20	キャッチーや実効性などのキーワードが出てきた。また、抽象的な内容にならざるを得ないかもしれないが、せっかく新しい総合計画を策定するので、アクションプランとしての性格を盛り込めるとよいと思う。 我々が協議するのは、基本構想と基本計画の2つであるが、もう1つの行政側が作成する実施計画がより実効的になるような仕組みができるとよいと思う。実効性の高い総合計画をつくっていきたいと思うのでご協力をいただきたい。